

| 科目番号 | 科目名 | 配当年次 | 授業形態 | 単位 | 担当教員 |
|--|----------------------|--|------|----|------|
| B103 | 宗教学概説 | 1年 | 講義 | 2 | 渡邊昇 |
| 授業概要 学生が身につけるべき基本的な資質を踏まえて、心の豊かさや命の大切さを宗教学から取り上げて考察する。先祖を意識させ自己の存在を確認させることで、生きる意欲や集団での行動を律することの大切さを学ぶ。また、科学万能といわれる現代社会において宗教は、どのような意味があるのだろうか。科学の発達が進めば進むほど、人間の心の問題は複雑になる。人間特有の不安や自意識によるものである。世界の優れた宗教を通して、宗教の持つ意味を考察する。 | | | | | |
| 到達目標(学習の成果) 日本人は宗教に無関心といわれているが、世界の三大宗教を中心に、インドおよび中国の宗教などに対しても理解を深めながら、自分の生活や社会生活に活かしていく能力と態度を身につける。また、古代より日本人に流れる習俗としての社会常識も理解する。(DP1) | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 回 | 表題 | 学修内容 | | | |
| 1 | 自己紹介と宗教学を学ぶにあたって | 自己紹介とガイダンス 人生の生き方や心の豊かさの一要因を形成する宗教意義を学び、集団の一員としての社会平和の貢献に宗教がいかに関わっているかを、アンケートの分析から理解する。 | | | |
| 2 | 古代の宗教とユダヤ教 | 死に対する恐怖や不安などの疑問や人としての根本的・普遍的な問題点を解決するために、各地域性豊かな宗教が誕生したことを理解する。 | | | |
| 3 | キリスト教(1) | イエスの生涯とその教えを取り上げ、根本に流れる平等主義とキリスト教の「神への愛」・「隣人愛」を考察する。人類愛の精神を共感的に学ぶことで視野を広げる。 | | | |
| 4 | キリスト教(2) | ヨーロッパ世界の精神的支柱としてのキリスト教が果たした役割や三大教派(カトリック・東方正教・プロテスタント)成立の背景と発展を考察する。 | | | |
| 5 | イスラム教 | イスラム教の原点に触れ、人種、国籍、身分にかかわらず、神の前での絶対的平等とその教えとしての六信五行並びにコーランの教えを学び、具体的に考察する。 | | | |
| 6 | バラモン教とヒンドゥー教 | 古代インド社会形成とバラモン教の変遷を歴史的に学び、ヒンドゥー教成立の背景を理解する。ヒンドゥー教の基礎的知識と問題点を考察する。 | | | |
| 7 | 仏教(1) 仏陀への道 | 釈迦の生涯と仏教成立の背景を学び、苦からの脱却、我執と煩惱、慈悲の世界を通して、生きることの意義を考察する。四諦・十二縁起・八正道など具体的な内容も理解する。 | | | |
| 8 | 仏教(2) 仏教の発展 | 東アジア二派に別れて広がった小乗(上座部)・大乘(大衆部)仏教の成立背景を理解し、二派の発展も歴史的に学ぶ。 | | | |
| 9 | 日本の仏教(1) 日本仏教の展開① | 朝鮮半島から日本への仏教伝来と聖徳太子の仏法精神を理解し、国家仏教として奈良仏教を考察する。最澄と空海を中心に平安仏教と末法思想が、人心を強くとらえた阿弥陀浄土信仰を学ぶ。 | | | |
| 10 | 日本の仏教(2) 日本仏教の展開② | 鎌倉仏教浄土系仏教、禅系仏教、法華系仏教は、民衆への仏教の流布という点で画期的発展をする。その後、江戸時代により本寺(本山)末寺関係の確立や檀家制度成立について考察する。 | | | |

| | | |
|----|----------------------------------|--|
| 11 | 中国の宗教(1) 儒教 仏教 道教 の融合思想の確立 | 中国社会の思想の元となった孔子中心の儒教、寇謙之により仏教的要素を加味した道教の大成により、確立した中国民衆宗教を理解する。 |
| 12 | 中国の宗教(2) 漢民族の宗教 | 中国仏教の成立は、原点であるインド仏教と大きく異なる点を理解する。漢民族による多面的民俗宗教としての成立背景を考察する。 |
| 13 | 日本神道について | 日本独自の民俗宗教である神道は、地域社会の現世利益信仰と結びついての発展をみた。国家神道の成立もあつたなかで動きを考察する。 |
| 14 | 仏像にみる日本人の宗教観 | 仏像の見分け方とその心を、映像を取り入れより具体的に理解しながら、仏像世界(如来・菩薩・明王・天部)を考察する。また、栃木県の代表的仏像についても学ぶ。 |
| 15 | 現代における宗教学の意味 | グローバルな視野に立ち、国際平和維持に関わっている宗教は、別な面から見ると対立の原因でもある。現代という複雑な社会の中で、宗教の持つ意味を考える。 |

準備学修(授業外の自己学修)

授業の終わりに次回への課題が出ます。事前に準備し、スムーズに学習できるための準備をすること。

成績評価の方法・基準(%表記)

・単位認定には全講義回数数の3分の2以上の出席が必要。成績に関しては、期末テスト 70%・レポート 20%・授業中の態度および出席率 10%により評価する。

・授業に遅刻や早退しないこと。また、中抜けもしないこと。20分以上の遅刻は欠席と見なします。

| 観点 | S | A | B | C |
|---|---------------|-----------------|---------------|----------------|
| 心の豊かさや命の大切さを宗教学から取り上げ、先祖を意識させ自己の存在を確認し、生きる意欲や集団での行動を律することの大切さを学ぶ。 | 完全に(理解できている等) | ほぼ完全に(理解できている等) | 十分に(理解できている等) | 一定程度(理解できている等) |
| 世界の優れた宗教を通して、宗教の持つ意味を考察する。 | 完全に(理解できている等) | ほぼ完全に(理解できている等) | 十分に(理解できている等) | 一定程度(理解できている等) |
| 宗教学を通して、自己生活や社会生活に活かしていく能力と態度を身につけ、古代より日本人に流れる習俗としての社会常識も理解する。 | 完全に(理解できている等) | ほぼ完全に(理解できている等) | 十分に(理解できている等) | 一定程度(理解できている等) |

教科書

使用しない 私製のプリント使用

参考書等

「宗教学入門」ミネルヴァ書房 棚次正和・山中 弘編著

「世界の宗教」大明堂 岸本英夫編著

履修上の注意・学修支援

受講態度を重視する。

何かわからないことがあつたら、授業終了後に相談すること。